

## 申1号 JR東労組新幹線協議会「第7回定期委員会」発言等に基づく申し入れ交渉 その1

1. 列車分離における今後の対策と、その対策の対応で想定される課題について明らかにすること。

回答：現在行っている「当面の対策」で使用しているレバー固定治具に代わり、新たに空気管開閉器～テコ引きシリンダ間の空気管路に電磁弁を設け、NFBを扱い電磁弁を動作させることで、併結運転中に空気の流れを機械的に遮断する対策を行っている。なお、改造工事中の過渡期の取扱いは、NFB「入」定位とし、「使用停止」等の表記をしたシールラベルを貼り付けているところである。

《組合》現在、電磁弁とNFBの工事を進めているとの事だが、課題点等はあるか。

《会社》新たな装置、仕組みを設けるといことで改造工事後の検証を新幹線総合車両センター主導で行っている。課題としては運行中にNFBの切り忘れがあった場合など車両状態がどうなるかといった点や意図しない動作をしないかといった点など、洗い出しや検証を進めている。

《組合》「当面の対策」が治具着脱からNFBの取扱いに代わる時期の見通しはあるか。

《会社》具体的な開始時期はまだ示せるものがない。E5、E6系については11月中に改造工事が終わる見込みだが、E8系については新車導入などもあるので時期を見て新たに工事計画を策定する計画である。現在示せるところはこの程度である。

《組合》列車分離の原因はまだわからないが、原因と推測される機器への空気の供給を断つ対策を行っているという認識で良いか。

《会社》その通りである。

《組合》なぜ現行に代わる「当面の対策」をNFB扱いとしたのか経緯を教えてください。5SRや地点検知を利用して自動化する方法もあったのではないかと。NFB扱いを行う必要がある対策としたのはなぜか。

《会社》5SRや地点検知が誤動作、故障した場合のリスクを考慮した。また、部品の入手のしやすさなど対策実施の即効性も考慮し今回の対策実施となった。同様の事象が2回発生していることを踏まえ、3度目は起こさないよう車両の対策を行っている。

《組合》走行中に空気管開閉器が動作したような痕跡が治具から見つかったことはあったか。

《会社》治具の着脱時に多少傷がつくことはあったが、走行中に空気管開閉器が動作したと思われる痕跡は見つかったことはない。

《組合》職場では原因が分からない中で運行継続していることに不安の声もある。事象の大小に関わらず、安全に関することは原因究明をしっかりと行わなければならないという認識である。

《会社》運輸安全委員会と情報共有などしながら、早急に原因が究明されるよう協力体制を取っていることは理解してほしい。安全が当社のトッププライオリティであることに変わりはない。

現場からの声と原因究明をもとに、新幹線の安全を実現しよう！